

子どもたちが互いに認め合い，高め合う学級づくりの研究

「振り返りの場」を生かした指導過程の工夫

久保田町立思斉小学校 教諭 中武 友子

要 旨

本研究は，学級活動の「(1)学級や学校の生活の充実と向上に関すること」の活動内容において，指導過程を工夫し，子どもたちが互いに認め合い，高め合う学級づくりの在り方を探ろうとしたものである。「企画立案 課題解決の話合い 役割分担 実践活動 振り返り」の一連の活動の過程に，子どもたちが自己評価や相互評価を行い活動を振り返る「あいあい活動」を取り入れた。その結果，子どもたちは学級における存在感を感じ，友達に進んで働きかけようとする力を高めることができ，学級には互いに認め合い，高め合おうとする風土が育った。

<キーワード> 「あいあい活動」 学級における存在感 友達に進んで働きかけようとする力

1 主題設定の理由

最近の子どもに見られる問題行動の遠因として，家庭や地域社会における子どもの人間関係の希薄化に伴う人とかかわる力の未熟さが挙げられている。このような状況において，子どもたちが1日の多くの時間を過ごす学級は，人間関係づくりを学び，互いを認め合うことのできる場であるべきだと考える。そのためには，子どもたち一人一人が学級の中で存在感を感じる必要があるとあり，存在感を感じてこそ，友達に関心をもち，互いに認め合い，高め合おうとする風土が育つと考える。

そこで，本研究では，指導過程の中に振り返りの場を設定した学級活動の単元の展開を試みる。実践活動の役割分担に重点を置き，友達や学級のことも考慮した上で，自分がどのような役割を担えばよいかを考えさせ，一人一人に納得できる役割を担わせる。そして，子どもたちが自分のよさや可能性を発揮できる役割を果たしていく活動の過程に，認め合いの観点をもたせた振り返りの場を設定すれば，子どもたちは満足感や達成感，友達とかかわる心地よさを感じて，学級の中での存在感を高めることができると考える。このように，振り返りの場を生かした指導過程を工夫することを通して，学級全体に認め合い，高め合う風土を広げたいと考え，本研究主題を設定した。

2 研究の目標

互いを認め合い，高め合おうとする学級にするために，子どもたち一人一人が学級の中で存在感を感じることができる学級経営の在り方を探る。

3 研究の仮説

学級活動を中心として，認め合いの観点をもたせた指導過程を工夫すれば，子どもたち一人一人が学級の中で存在感を感じ，友達に進んで働きかけようとするであろう。

4 研究の内容と方法

学級における友人関係の調査を基に，子どもの実態と学級集団の状態を把握する。

振り返り活動についての文献研究を行い，振り返りの場を生かした単元の指導過程を工夫する。

検証授業（第4学年）を行い仮説の有効性を検討し，考察とまとめをする。

5 研究の実際1（実践化への手立て）

(1) 研究の全体構想（図1参照）

渡部邦雄は、「人間はそれぞれ他者との関係のなかで生きており、他者から自己を認められ、なくてはならない存在として認知されたとき、自己の存在感を見出す」⁽¹⁾と述べている。このことから、自己の存在感を感じさせるためには、友達から認められる体験をすることが有効であると考えられる。また、木村夏子は、「活動を通して、自分自身や友達によさに気づき互いに認め合うことによって、進んで人とかがわろうとする意欲が育つ」⁽²⁾と述べている。

「なすことによって学ぶ」とされる学級活動において、自己評価や相互評価を取り入れた振り返りの場を設定することによって、学級の中で存在感を感じ、積極的に友達に働きかけようとする子どもが育ち、学級としても、認め合い、高め合おうとする風土が育つと考える。

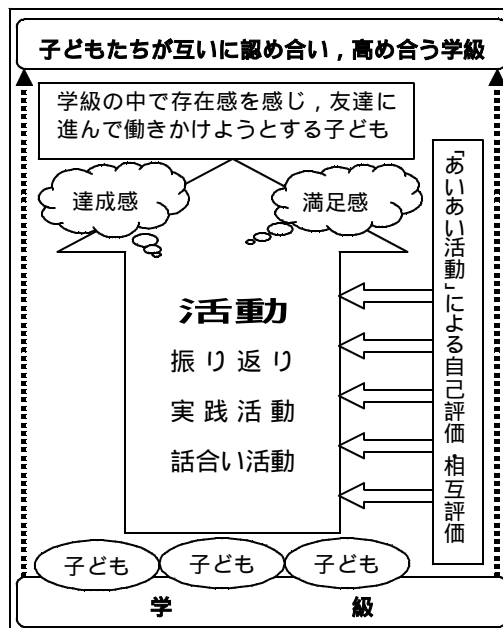


図1 研究の全体構想

(2) 「あいあい活動」（振り返りの場）

ア 「あいあい活動」について

日常生活や実践活動を振り返って自己評価や相互評価を行い、自分や友達によさを認め合う活動を「あいあい活動」とする。日常的に行う「あいあい日記活動」、希望の役割を決めるための「あいあいレポート活動」、学級会で行う「役割分担の話し合い」、実践活動中の帰りの会で行う「あいあいタイム」、一連の活動を振り返る「あいあい会議」を設定する。

イ あいあい活動を取り入れた指導過程

~~~~~ 自己評価活動 ——— 相互評価活動

| 指導課程      |                                                                                                                                                                                                                                              | あいあい活動の内容                                                                                                                                                                                                               |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学級会の事前の準備 | <b>あいあい日記活動</b> .....→<br>(単元を通して日常的に行う)<br><br>議題やプログラムの決定<br>話し合いカードの記入<br><b>あいあいレポート</b><br>話し合いカード<br><br>希望の係 <input type="checkbox"/><br>理由 .....<br>.....<br>.....<br>.....<br>.....<br>意見をもたう<br><br>希望の決定 <input type="checkbox"/> | 日記を読む<br>学活便りに載っている日記を読み、友達の活動の様子や思いを知り、 <u>役割が合う友達によさにも気付く。</u><br>日記を書く<br>自分の活動の様子や思いを書いたり、活動中に見つけた友達によさを <u>書いたりする。</u><br>「あいコミ」をする<br>心に残った日記の内容に関する <u>日記を書き、自分の考えを伝える。</u>                                      |
|           |                                                                                                                                                                                                                                              | 担当したい係を話し合いカードに記入する<br>今までの実践活動や学習場面、生活場面を振り返りながら「 <u>自分らしさが発揮できる</u> 」若しくは「 <u>挑戦したい</u> 」どちらかの視点で係を選ぶ。<br>友達やおうちの人から意見をもらう<br>希望の係が自分に合うと思うかどうか意見を <u>書いてもらう。</u><br>担当したい係を決定する。<br>もらった意見を <u>読んで、思いや係を再考し決定する。</u> |
| 学級会       | 柱1 集会の内容について<br>柱2 <b>役割分担の話し合い</b> .....→<br>「希望が少ない係をしてくれる人を探そう」                                                                                                                                                                           | 推薦し合う<br>希望が少ない係をしてほしい人を「 <u>その人らしさが発揮できそう</u> 」「 <u>挑戦して欲しい</u> 」という理由で推薦し合う。<br>役割を決定する<br>推薦された人は自分の希望を大切にしながら、友達や学級のことも考えて <u>役割を決定する。</u><br>推薦された友達の考えについての感想を伝える<br>推薦された人の考えを肯定的に聞き <u>感想を言う。</u>               |

|      |                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                             |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実践活動 | 帰りの会<br><b>あいあいタイム</b> の設定<br>ゴールカード<br>名前<br>めあて .....<br>シール<br>よさ見付けの観点                                                                                        | めあてを決める<br>実践活動のめあてを個人で立てさせ、ゴールカードに記入させ掲示する。<br>シールで相互評価をする<br><u>「よさ見付けの観点」を基に友達のよさを見付け、ゴールカードにシールを貼り合う。</u><br>カードにメモをする<br>見付けたよさをメモカード(「あいあいカード」)にメモする。 |
|      | 「らしさ」の発見(黄色)・・・その人らしいよさ<br>「新しい」発見(ピンク)・・・意外性や知らなかったよさ<br>「のび」の発見(水色)・・・挑戦しためあてが達成された場合のよさ、よい方への変化を見付けた場合のよさ<br>「クラスのため」の発見(橙)・・・みんなのため、よりよいクラスにするための活動を発見した場合のよさ |                                                                                                                                                             |
| 振り返り | <b>あいあい会議</b>                                                                                                                                                     | よさについて話合う<br>互に見付けたよさを伝え合いながら、友達のよさに共感する。<br>付箋を交換する<br>見付けたよさを付箋に書き交換し合う。                                                                                  |

### (3) 検証の視点

| 検証番号 | 検証の視点                | 検証内容                                                                          |
|------|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
|      | 活動を通しての学級における存在感の高まり | 自分に合う役割を決定し実践していく過程で「あいあい活動」をすることで、学級の中での存在感が高まったか検証する。                       |
|      | 友達に進んで働きかけ           | 「あいあい活動」をすることで、子どもたちのかかわり合おうとする意識が高まるとする力の高まり、進んで友達に働きかける態度が見られるようになったかを検証する。 |

## 6 研究の実際 2 (授業を通した実践的研究)

### (1) 検証授業 1 「1年生を楽しませる集会をしよう」11月実施(第4学年, 36名)

#### ア 学級会「役割分担の話合い」の概要と抽出児の記録

**学級会 柱2「役割分担をしよう(希望の少ない係をしてくれる人を探そう)」**  
**劇係をしてくれる人を探す場面(抽出児であるC児が話題に挙がった場面)**

A児 ぼくは、BさんとCさんに劇係をして欲しいです。訊は、77号パーティーのときに、二人でビヨビヨダンスとかかしていてもしろかったからです。二人で劇をして盛り上げて欲しいと思います。

D児 私もBさんとCさんが劇係に入ることに賛成です。それは、みんなが言ったようにビヨビヨダンスとかしたときおもしろかったし、BさんとCさんは明るいしおもしろいからです。～略～(他5名発言)

C児 私は自分の明るさとかおもしろさとかは自分では分からないけど、みんなが元気がいいとか明るいとか喜んでくれたから、私も劇係に代わりたと思います。

E児 二人が劇係に入るという一言を聞いて、劇が盛り上がりそうだなあと思いました。二人とも、ぜひ頑張って下さい。

**C児の学級会後の感想**  
 ～略～最後に、みんなは私のよさや明るさを知ってくれた。本当にうれしかった。

**C児の学級会当日の日記**  
 私は自分のよさが分かりませんでした。でも、みんなは知っていて、私に私のよさを教えてくれました。だから、飾り係から劇係に移ることができました。みんなが、私のよさを教えてくれなかったら、飾り係のままだったかもしれません。みんな、ありがとう。

#### イ 検証の視点 (活動を通しての学級における存在感の高まり)についての考察

学級の中に存在感を感じた姿を「学級の友達から自分のよさを認められることで自信をもち、意欲的に活動できる姿」ととらえ、図2のような感想をもったとき、活動を通しての存在感の高まりがあったと考える。

表1に示すように、学級会でC児は ～～ のような感想をもっている。児童の感想から認められたと感じていることが分かり、C児の存在感の高まりがあったと考える。

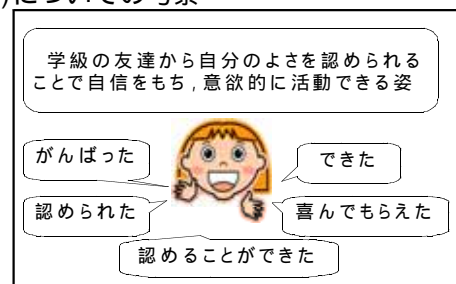


図2 存在感を感じた姿

(2) 検証授業2「1/2成人式をしよう」 1月実施

~~~~~ 存在感の高まりを確かめる言葉

ア 「あいあい活動」の概要と抽出児F児, H児の記録

—— 友達に働きかけている言葉

「あいあいレポート活動」




希望の係と理由
話すのは苦手だけどおうちの人やみんなのおかげで話せるようになったから、その話せるようになったところをおうちの人たちに見せたいから司会係になりたい。

F児の希望の係に対する友達やおうちの人からの意見

- ・ F君が司会に挑戦するのは大賛成だよ。がんばってね。(G児)
- ・ Fの司会をしている姿を見たいですね。やれば出来ると思います。大きな声を出して頑張ってください。決まったらいいね。(F児の母親)

F児の希望の役割決定 ぼくは(司会係)をやりたいです。


「学級会」(役割決めの話し合い)



H児が、司会係から ×クイズ係に代わる。


ぼくは、前の集会の司会で反省したところを頑張ってみたいと思っていたけど、×クイズに挑戦したい気持ちもあるから ×クイズ係でいいです。

「あいあいタイム」



のべ13名のよさを発見し「あいあいカード」に記録する

- ・ 「K君ははじめの言葉を家で考えて来てくれた。
- ・ L君は、みんなの意見をまとめてくれた。などのべ20名から「ゴールカード」にシールをもらう
- ・ 休み時間もプログラム作りをしていた。など




のべ27名のよさを発見し「あいあいカード」に記録する

- ・ Mさんは、一生懸命に声を大きくしようと頑張っていた。
- ・ I君は、休み時間に一人で一生懸命に問題を考えてくれた。など


のべ15名から「ゴールカード」にシールをもらう

- ・ グループみんなの意見をまとめてくれた。など

「あいあいタイム(集会当日)」



はじめの言葉やゲームの紹介を言ったり、おうちの人への手紙を代表で読んであげた。元気よく話すことができた。



×クイズの進行を務める。友達が発言につまずくと横から教えていた。はきはきとした声で進めた。

あいあいカード(集会編)より

ぼくは自分なりに大きな声で言えたけど、もうちょっとはずかしがらず言いたかったです。そして、多分、お母さんに感謝の気持ちが伝わったと思います。
~略~

あいあいカード(集会編)より

自分の目標は達成したし、グループみんなが協力していい ×クイズになったと思います。自分では100点だと思いました。Mさんは前の日に声を出す練習をして、今日、声を大きくして ×クイズを成功させてくれました。だから、がんばってるなあと思いました。F君は、みんなの代表として手紙を読んでくれました。いい文を読んでくれて、僕は、F君はとってもがんばったなあと思いました。

「あいあい日記活動」《準備活動中》

- ・ 自分の活動の様子や思い、友達のI児のよさを書いたH児の日記

「係で」

僕は ×クイズ係で、クイズを一生懸命考えています。みんなが分かるように工夫して、いい ×クイズにしたいと思っています。I君は、頑張っているいろいろ考えてくれてます。僕も、I君のように頑張りたいです(H児)。

- ・ 上記のF児の日記に「あいこみ」をしたJ児の日記

「あいこみ(F君へ)」

ぼくはげき係で、台本ができたから練習しています。F君も早く、I君みたいに ×クイズの工夫を考えてね。F君が考えた ×クイズが楽しみだな(J児)。

- ・ おとなしいO児がナレーターをすることを知り、O児に働きかけるF児の日記

「O君、がんばってね」

O君はナレーターになったんだよね。ナレーターになったなら、絶対に大きな声で言うしかないね。O君がナレーターをするの、楽しみにしているよ(F児)。

イ 「あいあい会議」(展開の概要と授業記録)

| 学習活動 | 教師の働きかけ |
|--|--|
| <p>1 集会までの学習をおおまかに振り返る。</p> <p>2 実践活動で見付けたよさについて話し合う。</p> | <p>おうちの人への集会の感想を掲示し読ませておく。</p> <p>あいあいカードに記入している友達のよさの中でみんなに伝えたいものに線を引かせておく。</p> |
| <p>【F児の代表で読んだ手紙について】</p> <p>Q児 ぼくは、おうちの人への手紙のとき、F君は、声が大きく、心のこもった声でおうちの人に10年間ありがとうという気持ちが伝わっていたのでよかったです。~略~(他5名発言)</p> <p>F児 ぼくは緊張していたけど、大きな声でちゃんと伝えることができたし、おうちの人から褒められたからよかったです。</p> | |

【消極的なM児の ×クイズ係挑戦について】

- C児 私は、Hさんのよさを見付けました。Hさんは ×クイズで女の子一人だったけど、声を大きく出すというめあてで一生涯やってきたから、すごいなあと思いました。～略～（他5名発言）
- H児 ぼくは、Mさんが最後の練習のときに、声が小さいと思って一人で声を出す練習をして、大きな声を出したので、Mさんとはとてもがんばったなあと思いました。
- N児 ぼくは、H君とちょっと似ていて、Mさんは一人で声を出す練習をしていて、集会のとき、結構大きな声を出していたので、すごいなあと思いました。
- H児 クイズがまだ全然決まっていなかったときに一人で考えてきたし、それはいい意見だったのですぐに決まって、すぐに練習に取り掛かれたので、すごくよかったです。
- M児 最初は女の子一人で不安だったけど、集会のときは自分でも大きな声を出せましたし頑張れたと思います。

【学級会で係を代わったH児について】

- L児 司会になれなかった分、 ×クイズ係ですごく頑張っていたから、H君はすごいなあと思いました。～略～（他2名発言）
- H児 ×クイズ係は初めてだったので、全然分からなかったけど、経験者のI君がいたので、いろいろ助けてもらってとってもうれしかったです。
- I児 ぼくは助けた記憶はないけど、助けていたんだなあと思います。


3 友達のをさを付箋に書き合い、交換する。 話し合いの中で名前が挙がらなかった子どもにも、自分のよいところを書いた付箋をもらうことで認められる機会を与える。

- F児 「手紙」を読むのが上手だったよ、気持ちは伝わっているよ」など、6枚をもらう。
「一緒にはじめの言葉を考えてくれてありがとう」など、3枚を渡す。
- H児 「アドバイスをしていたからすごいと思ったよ」など、4枚をもらう。
「練習のとき、クイズを考えてくれてありがとう、M君のおかげだよ。」など、4枚を渡す。

4 自分の活動を振り返る。 数人に発表させ友達の達成感の喜びに共感させる。

- F児  ぼくは、集会当日に手紙を忘れて、朝に猛ダッシュで書いたから、そこがいけなかった。集会では頑張ってるやる気が出せたと思います。
- H児  自分では、目標を達成しなし、めあて以外のところでも頑張れたと思います。クラスみんなは、集会を成功させようと一人一人の力を出し合って一生涯取り組んで、とっても頑張ったと思う。

「あいあい日記活動」

| | |
|--|---|
| <p> ・「あいあい会議」で友達から認められたことを書いたF児の日記</p> | <p>・「あいあい会議」でH児から認められたことを書いたI児の日記</p> |
| <p>「本当に読んでよかった」
今日のあいあい会議で、ぼくは、手紙を読んだこととかでほめられました。ぼくは、本当は、最初は手紙を読みたくなかったけど、読まないといけないと決まったことだから、決心して読んだ結果、よかったとほめられたので、本当に読んでよかったです(F児)。</p> | <p>「あいあい会議」
今日の2時間目にあいあい会議がありました。そこで、H君に「経験していたから助けてもらった。」と、言われました。ぼくはびっくりしました。なぜって、そんなつもりなかったからです。でも、言ってもらってうれしかったです。言ってくれてありがとう(I児)。</p> |

ウ 検証の視点 (活動を通しての学級における存在感の高まり)についての考察

F児はみんなの前で話すことに苦手意識をもっていたが、挑戦する気持ちで司会係になった。集会では、おうちの人への手紙を読む役を担い、「自分なりに大きな声で言えた」「お母さんに感謝の気持ちが伝わった」という感想をもっており、達成感を味わっているようであった。また、「あいあい会議」において、発言や付箋で「大きな心のこもった声で、おうちの人にありがとうという気持ちが伝わっていた」「手紙を読むのが上手だったよ」などと友達から褒められたことで、「本当に読んでよかった」と満足感を強めており、F児の学級における存在感の高まりがあったと考える。

エ 検証の視点 (友達に進んで働きかけようとする力の高まり)についての考察

H児は、日記を書くときに進んで「あいこみ」をしたり「あいあいタイム」でたくさんの友達のよさを見付けたりと、友達の活動に関心をもって取り組んでいた。「あいあい会議」においては3度発言している。そのうちの2回は同じ係のM児のよさについての発言で、「一人で声を出す練習をしていた」「一人で考えて来てくれた」と、同じ係の友達の活動をよく見て、よさに気付くことができた。

また、「経験者のI君がいたので、いろいろ助けてもらってうれしかった」と発言したことで、I君が認められる喜びを感じていることがI君の日記から伺える。このように、友達に認められた喜びを感じさせるようなよさ見付けもできており、H君には、友達のよさを進んで認めようとする態度が育っていると考える。

(3) 学級全体についての考察

図3は、「Q-U:楽しい学校生活を送るためのアンケート」の10月から2月の変化を学級満足尺度分布に表したものである。学級全体的に承認得点が上がっており、承認意識が向上し、認め合おうとする風土が育ったと考えられる。図中のアルファベット記号は、前述の「あいあい会議」で話題に挙がった子どもたちの承認得点、被侵害得点の変化を示している。F君は代表で読んだ手紙について、H君は代わった役割での頑張りについて、M君は声を出す役割への挑戦について、学級全体の中で認められる体験をした。この子ども

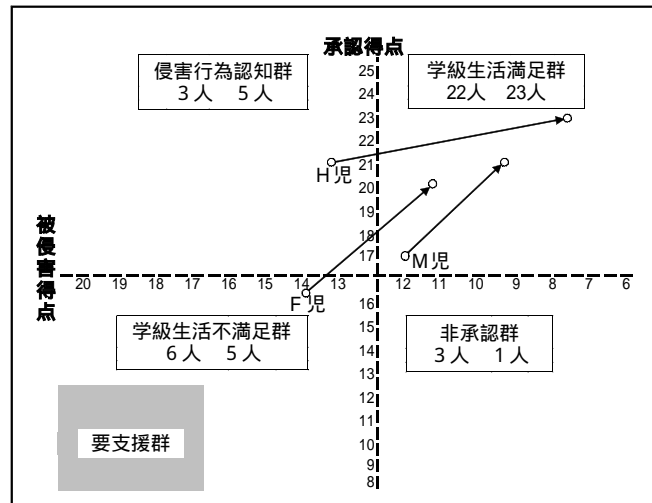


図3 学校満足度尺度(10月 2月)

たちには、特に著しい変化が見られた。振り返りの場を設定し学級全体の中で認められる機会を一人一人に与えていくことで、学級全体の認め合う風土は更に育つと考える。

また、実践活動の中でも、活動が分からない友達に声を掛けたり、他の係を手伝ったりする子どもの姿が多く見られた。認められる体験を繰り返したことで、進んで友達にかかわろうとする意欲が高まったと考える。

7 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

- ア 「あいあいレポート」や「役割分担の話合い」で役割決めに重点を置いたことで、一人一人がよさや可能性を發揮できる役割を担い、めあて意識をもって活動に向かうことができた。
- イ 指導過程全体にあいあい活動を取り入れ全員に認められる機会を与えたことで、一人一人が満足感や達成感を感じ、学級における存在感を高めることができた。
- ウ 「あいあい日記活動の『あいコミ』」「あいあいタイム」「あいあい会議」において相互評価に力を入れたことで、友達のよさや可能性に目を向け、応援したり共に頑張ろうとしたりする態度が育ち友達に進んで働きかける力が高まった。

(2) 今後の課題

学級活動の中だけでなく、日常生活の中にも「あいあい活動」を広げる方策を探りたい。また、子どもたちの相互理解を深めるための指導の在り方を研究していきたい。

《引用文献》

- (1) 渡部 邦雄 「自己指導能力を育てる」『生活指導』 1994年 ぎょうせい p.7
- (2) 木村 夏子 「子どものよさを認め合いに生かす指導の構想」『特別活動研究』 2002年 明治図書 p.11

《参考文献》

- ・ 国分 康孝監修 『Q-U:楽しい学校生活を送るためのアンケート』 1999年 図書文化